

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査の

逗子市の結果について

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査の対象

逗子市立小学校第 6 学年児童	4 1 5 名
逗子市立中学校第 3 学年生徒	3 6 2 名



(3) 調査の内容

①教科に関する調査（国語，算数・数学）

- ・国語A，算数・数学A：主として「知識」に関する問題を中心とした出題
- ・国語B，算数・数学B：主として「活用」に関する問題を中心とした出題

②質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

(4) 調査の方式 悉皆調査

(5) 調査日時 2017年（平成29年）4月18日（火）

(6) 調査結果の分析にあたって留意したこと

本調査の結果から見てとれることとして、次のような点に留意して分析を行った。

- ①実施教科が「国語」「算数・数学」の2教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の特定一部であること。
- ②年度により問題の質が異なるため、経年変化の状況のみから学力の向上・低下の傾向を容易に評価することは難しいこと。

(7) 調査結果(正答率)

(小学校)

教科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国語 A	75.0 %	73.0 %	74.8 %
国語 B	60.0 %	57.0 %	57.5 %
算数 A	79.0 %	77.0 %	78.6 %
算数 B	47.0 %	46.0 %	45.9 %

(中学校)

教科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国語 A	77.0 %	77.0 %	77.4 %
国語 B	72.0 %	72.0 %	72.2 %
数学 A	65.0 %	64.0 %	64.6 %
数学 B	48.0 %	48.0 %	48.1 %

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>○国語 A(主として知識)においては、本市の平均正答率は、全国平均、神奈川県平均に対して±1～2 ポイントの範囲内にあり、全体的にはほぼ全国、神奈川県と同程度の結果といえる。国語 B(主として活用)においては、本市の平均正答率は、全国平均に対して 2.5 ポイント、神奈川県平均に対して 3 ポイント上回る結果といえる。</p> <p>●基礎的・基本的な知識は、一定数の児童にはほぼ身につけていると言えるが、それを活用して、目的や意図に応じて必要な内容を整理して話すことや、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることについて、依然として課題が見られる。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○目的や意図に応じ、自分が伝えたいことについて、的確に話すことができるかどうかを見ることについては、特に、話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える問題で全国平均正答率より5ポイント上回っている。【B1 (2)】</p> <p>●目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことについて課題がある。【B1 (3)】</p>
<p>書くこと</p>	<p>○お礼の気持ちを伝えるために、どのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する問題について 8 割を越える児童が出来ている。【A1 (2)】</p> <p>○『学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思うか』を問う質問に対して「当てはまらない・どちらかといえば当てはまらない」と答えた児童が全国の平均を 10 ポイント以上上回っている。【質問番号 67】</p> <p>●手紙の構成を理解し、後付けを書くことについて課題がある。【A2 (2)】</p> <p>●目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書くことについて課題がある。【B2 (3)】</p> <p>●物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることについて課題がある。【B3 (3)】</p>
<p>読むこと</p>	<p>○登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることについて、全国と県の平均正答率を 8 ポイント以上上回っている。【B3 (1)】</p> <p>○俳句の情景を捉えることについて、俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する問題は 8 割の児童が出来ている。【A4 (1)】</p> <p>●俳句の情景を捉えることについて、グループの話合いを通して見付けた俳句のよさとして適切なものを選択する問題の正答率は 6 割にとどまっている。【A4 (2)】</p> <p>●自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることについて課題がある。【B3 (2)】</p>
<p>伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項</p>	<p>○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることについて、相当数の児童が出来ている。【A5 (ア) (イ)】</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことについて、相当数の児童が出来ている。【A7 (3) (4) (6)】</p> <p>●学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことについて、課題がある。【A7 (1)】</p>
<p>児童質問紙 国語に関する質問 問 6 9～7 7</p>	<p>○国語の勉強は好きと回答している生徒は、6 割を越え、全国、神奈川県とはほぼ同程度である。また、国語の勉強が大切だと考えている児童も 9 割近くおり、高い割合である。</p> <p>○『国語の授業の内容はよく分かりますか』という質問に対して「当てはまる」と答えた児童が全国より 7 ポイント上回っている。</p> <p>●『国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか』という問いに対して 3 分の 1 の児童が「当てはまらない・どちらかといえば当てはまらない」と答えている。</p>

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(国語)

基礎的・基本的な知識の習得を図るとともに、それらを活用して、相手の考えを理解し自分の考えを分かりやすく伝える力を高める学習をより一層充実させる必要がある。

単元の取組の中で児童が「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」ということを明確にした『子どもの視点に立った授業づくり、授業改善』を図っていくことが大切である。

また、授業のふり返りを工夫し、取り組みの過程における自分の考えの深まりや広がり表現する力を高めていく必要がある。

領域および内容ごとの改善点については、以下に列挙する。

【話すこと聞くこと】

- * グループや学級全体の問題解決などに向けて、司会者や提案者、参加者の役割を決めて話し合い、より一層豊かな相互交流を図ることができるようにすることが重要である。その際、個人やグループの意見の共通点や相違点を整理し、児童一人一人の考えを反映させながら、学級全体として一つの考えに集約することや、互いに意見を述べ合う中で、各自の考えを広げたり深めたりできるようにすることが大切である。
- * 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように話すためには、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話すことができるようにする必要がある。話の構成や内容を工夫するためには、自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したり、結論付けを明確にしたりすることなどについて指導することが大切である。

【書くこと】

- * 読み手に自分の伝えたいことが分かるようにするためには、目的や意図に応じて、取材の内容や方法を工夫し、書く事柄を収集した上で、その中から、具体的な事実と自分の感想、意見などを区別しながら必要な内容を整理して書くことができるように指導することが考えられる。
- * 叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめるためには、複数の場面を比較したり、物語全体に広がっている複数の叙述を関係づけたりして読むことが重要である。感動やユーモア、安らぎを生み出す優れた叙述に注目することや、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容などに気づくことを大切にしながら、自分の表現に生かして感想をまとめることができるように指導することが大切である。

【読むこと】

- * 調べる学習活動においては、調べる目的や事柄を明確にした上で、本や文章を選び、その中の記述や説明から課題を解決するために必要な情報を選択することが重要である。その際、自分の持っている知識や情報、現実などと結び付け自分の考えを深めることができるように指導することが大切である。
- * 物語を読んで感想を伝え合う際には、相手の考えがどの叙述に基づいているのかを確認することや、「自分の考えについて、友だちの意見を聞きたい」「分からないことを相談したい」など児童一人ひとりが交流の目的を持つことができるように指導することが大切である。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- * 漢字の指導については、学習した漢字を字形に注意しながら繰り返し描いて練習するにのみならず、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導する必要がある。
- * 短歌や俳句の指導に当たっては、児童の発達の段階に応じた教材を選定するとともに、各地域にゆかりのある歌人や俳人、地域の景色を詠んだ歌や句などを教材として開発すること等が有効である。

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>国語 A「主として知識に関する問題」の正答率は 77%、国語 B「主として活用に関する問題」の正答率は 72%であり、全国、神奈川県の平均正答率と比較しても同程度の結果であった。</p> <p>領域的に見ても各領域、国及び県と大きな違いがなく、ほぼ同程度の結果となっている。その中で「書くこと」については、正答率が 85.6%あり、よく身につけている。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○「話すための材料を人との交流を通して集める」ことは、県、全国平均を上回る結果であった。【A7二】</p> <p>●「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」力は、県、全国平均より約 2%下回る結果であった。【A2一】</p> <p>●「相手にわかりやすいように語句を選択して話す」力は、県、全国平均より 3%以上下回る結果であった。【A7一】</p>
<p>書くこと</p>	<p>○「文章の構成を工夫してわかりやすく書く」ことは、県、全国平均を上回る結果であった。【A5一】</p> <p>●「目的や意図に応じて材料を集め自分の考えをまとめる」力は、県、全国平均を約 2%下回る結果であった。【A5二】</p>
<p>読むこと</p>	<p>○「文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ」ことについては、県、全国平均を約 5%上回る結果であった。【A4二】</p> <p>●「文章の表現の仕方について自分の考えをもつ」ことは、県、全国平均よりも約 4%下回る結果であった。【A8一】</p>
<p>伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項</p>	<p>○「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」力のうち「適切な語句を選択する」力は県、全国平均より上回る結果であった。【A9三オ】</p> <p>○「楷書と行書の違いを理解する」力は県、全国平均より 5%以上上回る結果であった。【A9六1】</p>
<p>生徒質問紙 国語に関する質問 問 73~79</p>	<p>「国語の授業の内容はよく分かりますか」という問いに対しては、肯定的な回答が約 69%であったことから、概ね授業内容が生徒に伝わっていると考えられる。また、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに対して、当てはまる、どちらかといえば、当てはまると答えた生徒が、約 79%いることから、学習内容が生活に活かされていると実感を伴うものとなっていることがうかがえる。</p>

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと

日常生活の中から話題を決め、話すための材料を人との交流を通して集める力が養われている。また、文章の構成を工夫してわかりやすく書いたり、目的や意図に応じて材料を集め自分の考えをまとめるたりする力が養われている。読むことに関しては、文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつことができている。自分の考えをもち、それをまとめる力が養われている一方で、どのように相手に伝えるかといった表現方法の工夫に改善が求められる。

領域ごとの改善点については、以下に列挙する。

【話すこと、聞くこと】

自分の考えを的確に伝え、聞き手の理解を図るためには、資料を提示する必要があるかを考え、効果的に活用することが大切である。スピーチや話し合い活動の中で、どのような資料を用いればよいかを吟味したり、それらを提示するタイミングなども考えさせることも必要である。また、資料の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表の仕方などについても、他者の発表を聞き、良い点、改善した方が良い点などを考えさせることも大切である。

【書くこと】

文章の構成を工夫してわかりやすく書く力は養われている。今後は、目的や意図に応じて材料を集め自分の考えをまとめていくことが必要である。そのためには、自らが決めた課題に対して、本、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどを活用しながら、課題に適した情報を収集する力を養うとともに、インタビューやアンケートなどにより、他者の意見と比較して自分の考えがどうであるかを整理させるような指導も取り入れることが望まれる。

【読むこと】

文章の表現の仕方に自分の考えをもつために、内容や表現の仕方について感想を交流する学習活動などを通して、お互いが、同じ表現に着目しているが捉え方が異なる、同じような感想を持っているが、根拠として取り上げている表現が異なる場合があることを指導するなど、自分の考えを広げたり深めたりできるように指導することが望まれる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

知識理解の部分で、文脈の中で適切な語句を選んだり、楷書と行書との違いを理解したりなど、国語の授業だけでなく学校生活全般での指導により、定着が図られている。

今後も、授業で学んだことが生活の場で活かされていることを実感できるよう、各教科等の学習や読書活動をすれ字中で出会った多様な語句を取り上げて指導することも効果的である。

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（算数）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>算数A（主として知識）においても、算数B（主として活用）においても、本市の平均正答率は、全国平均、神奈川県平均を上回り、全体的に良好な結果といえる。</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能は、多くの児童にほぼ身につけていると言えるが、それを活用して思考する力については、課題が見られる。</p>
<p>(算数) 数と計算</p>	<p>○基本的な四則計算（整数、小数、分数）や、数の大小関係については、多くの児童が理解できている。【A 1（1）A 2（1）（2）】</p> <p>○小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えた時の乗法の性質について、多くの児童が理解できている。【A 1（3）】</p> <p>●1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、その関係を数直線に表すことに課題がある。【A 1（2）】</p> <p>●料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述することに課題がある。【B 2（1）】</p>
<p>(算数) 量と測定</p>	<p>○任意単位による測定について多くの児童が理解している。【A 4】</p> <p>○高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係について、多くの児童が理解できている。【A 5】</p> <p>●仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述することに課題がある。【B 3（2）】</p>
<p>(算数) 図形</p>	<p>○正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成できることについて、多くの児童が理解できている。【A 6】</p> <p>○立方体の面と面の位置関係について、多くの児童が理解している。【A 7】</p> <p>●身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述することに課題がある。【B 5（2）】</p>
<p>(算数) 数量関係</p>	<p>○未知の数量を表す□を用いて、問題場面を乗法の式に表すことを多くの児童ができています。【A 8】</p> <p>○資料の二次元表への分類整理を多くの児童ができています。【A 9（1）】</p> <p>●割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことについて課題がある。【B 4（2）】</p> <p>●示された割合を解釈して、基準量と比較量の間接的な関係を表している図を判断することに課題がある。【B 5（1）】</p>
<p>児童質問紙 算数に関する質問 問 78～問 88</p>	<p>○70%の児童が算数が好きだと答え、90%以上の児童が算数が大切だと考えている。</p> <p>○77%の児童が新しい問題に出合ったときに解いてみたいと思いき、78%の児童が解き方がわからなくても諦めずにいろいろな方法を考えると回答している。</p> <p>○80%の児童が算数の授業がよくわかると答えており、全国平均と神奈川県平均を上回っている。逗子市の児童は全体として、算数の学習に意欲的に取り組んでいることがわかる。</p>

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと

基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらを活用して、自分の考えを説明したり、記述したりする学習に取り組む必要がある。生活場面における事象と算数の内容を関連付け、学習した用語を用いて自分の考えを的確に表現できるようにする。領域ごとの改善点については、以下に挙げる。

【数と計算】

- * 問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線に表すことは、問題を解決するうえで大切である。問題場面から数量の対応関係や大小関係を数直線上に表したり、数直線上の基準量に当たる 1 に対応する数量を問題場面から確かめたりする活動が考えられる。
- * 日常生活の問題を解決する場面では、様々な情報の中から必要な情報を収集した上で、条件に合うものを選択する力が必要になる。問題場面から児童に仮定の重さを決めさせたりして、その重さに対応する料金を選択させる活動が考えられる。その際児童がどのように考えて選択したかを説明できるようにすることが大切である。

【量と測定】

- * 日常生活において、一つの物の測定値としていくつかの数量があったとき、平均を用いることによって、より妥当な数値が得られる場合がある。その際飛び離れた数値については、その数値の扱い方を検討することが必要となる。また、平均がおよそどのくらいになるのかを見積もり、計算の工夫をすることで合理的・能率的に処理できる場合がある。そこで、飛び離れた数値を含む測定値の平均を求める学習や、平均値を見積もり、工夫して平均を求める学習を充実させることが重要である。

【図形】

- * 図形の学習においては、図形についての感覚を豊かにし、図形の性質を実感的に理解できるようにすることが大切である。そのためには、単なる知識として図形の性質を指導するのではなく、構成・分解などの活動を通して、図形の性質を見いだすことにより、その性質の理解を深めることができるようにすることが必要である。
- * 立方体や直方体などの立体図形の学習では、向かい合う面が平行になることや、隣り合う面が垂直になることを、具体物の観察や操作を通して理解できるようにすることが大切である。

【数量関係】

- * 問題を解決するために、目的に合った適切な表やグラフを選択し表したり、読み取ったり、グラフどうしを関連付けて解釈したりするなど、表やグラフを活用できるようにすることが大切である。
- * 割合の学習においては、問題場面から数量の関係を的確に捉えるために、数量の大小を考えたり、数量の関係を図に表したりすることで、基準量・比較量・割合の関係を明らかにし、正しくとらえることが大切である。そこで日常生活の事象について、割合を活用して数学的に解釈したり、事柄を適切に判断し、その理由を数学的に表現したりする学習を充実させることが重要である。

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（数学）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>○数学 A(主として知識)においても数学 B(主として活用)においても、本市の平均正答率は、全国平均、神奈川県平均に対して±1～2 ポイントの範囲内にあり、全体的にはほぼ全国、神奈川県と同程度の結果といえる。</p> <p>●基礎的・基本的な知識・技能は、一定数の生徒にはほぼ身につけていると言えるが、それを活用して思考する力（筋道を立てて説明したり、論理的に考えたりする力）には、依然として課題が見られる。</p>
<p>(数学) 数と式</p>	<p>○分数の乗法の計算、実生活の場面においてある数量が正の数と負の数で表される事を理解していることは相当数の生徒ができています。【A1(1)、A1(4)】</p> <p>●数量の関係を文字式で表すことについて課題がある【A2(1)】</p> <p>●具体的な場面で、一元一次方程式をつくることについて課題がある。【A3(2)】</p> <p>●事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することについて非常に課題がある。【B2(3)】</p>
<p>(数学) 図形</p>	<p>○平行移動した図形をかくこと、円錐が回転体としてどのように構成されているか理解していること。について相当数の生徒ができています【A4(2)、A5(2)】</p> <p>●扇形の弧の長さを求めることについて課題がある。【A4(3)】</p> <p>●錯覚の意味を理解すること、作図の手順を読み根拠として用いられている並行し円形になるための条件を理解すること について課題がある。【A6(1)、A7(2)】</p> <p>●2 つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することについて課題がある。【B1(2)】</p>
<p>(数学) 関数</p>	<p>○与えられた比例の式について、xの値に対するyの値を求めることや、一次関数のグラフの傾きと切片の値を基にxとyの関係を$y = ax + b$の式で表すことは、相当数の生徒ができています。【A10(1)、A11(1)】</p> <p>○与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることは相当数の生徒ができています。【B3(1)】</p> <p>●関数の意味を理解しているかどうかをみる問いについて非常に課題がある。【A9】</p> <p>●与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解していることについて課題がある。【A10(3)】</p>
<p>(数学) 資料の活用</p>	<p>○[同様に確からしい] ことの意味を理解していることや、簡単な場合について確立を求めることができることについては、相当数の生徒ができています。【A15】</p> <p>●範囲の意味を理解していることや、与えられた度数分布表についてある階級の相対度数を求めることについて課題がある。【A14】</p> <p>●資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについて課題がある。【B5(3)】</p>
<p>生徒質問紙 数学に関する 質問</p>	<p>○数学の勉強は好きと回答している生徒は、6割程度で、全国、神奈川県と比べても高い割合である。また、数学の勉強が大切だと考えている生徒も8割程度と高い割合であり、ともに昨年度より上昇している。</p> <p>●授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える生徒の割合が5割程度と他の質問に比べ割合が低くなっている。</p> <p>●調査問題の解答時間について、数学Aに比べ数学Bはちょうどよかったと答えた生徒の割合が少なく、足りなかったと答える生徒も1割以上多いことから、活用する問題を解くときに時間が足りない事が分かる。</p>

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(数学)

基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらを活用して、自分の考えを数学的に説明したり、表現したりする学習をより一層充実させる必要がある。

見いだした事柄や事実を説明できるよう、数量や図形などの考察対象や問題場面について、成り立つと予想される事柄や事実を見出したり、それを的確に捉え直し、前提とそれによって説明される結論の両方を数学的に表現できるようにする。また、事柄が成り立つ理由を説明できるよう、論理的な思考力や表現力を育てる必要がある。

領域ごとの改善点については、以下に挙げる。

【数と式】

*事柄や数量の関係を文字式で表したりできるようにするために、具体的な数や言葉を使った式を利用して数量の関係を捉え、文字式で表したり、その意味を解釈したりする活動を取り入れていきたい。

*問題解決の場面で数量の関係を捉え、一元一次方程式をつくることができるようにするために、ある特定の量に着目して線分図や表などに数量の関係を表し、等しい関係を見出す場面を、授業の中で設定することを行いたい。

*事象を数学的に考察できるようにするために、数量の関係や法則などを敷きに表したり、式を事象に即して解釈したりする活動を取り入れることが必要である。

【図形】

*扇形の弧の長さや面積を求めることができるようにするために、扇形を園の一部として捉え、弧の長さや面積がその中心角の大きさに比例することを確認する場面を授業の中で設定し、例えば園を紙で作って折ったり切ったりするなどの観察、操作や実験を通して、円と扇形を関連付け、扇形の弧の長さや面積とその中心角の大きさの関係を捉える活動を充実させることが大切である。

*日常的な事象において、数量や図形に着目して見出した事象の特徴を、数学的に表現できるようにするために、前提とそれによって説明される結論の両方を説明する場面を設定する必要がある。

【関数】

*様々な事象の考察を通して関数の意味を理解できるようにするために、事象の中にある2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を取り入れる。その際、独立変数と従属変数との違いを意識して「…は…の関数である」という形で表現する場面を設定することが大切である。

【資料の活用】

*範囲の意味を理解できるようにするために、範囲とは、資料の最大値と最小値との差であることを確認した上で、資料の散らばりの程度を捉える活動を取り入れたい。また、相対度数の必要性和意味について理解できるようにするために、ある階級の度数の総度数に占める割合を求めて、資料の傾向を読み取る活動を取り入れたい。

*資料の傾向を的確に捉えて判断できるようにするために、資料の分布の様子を捉え、説明する場面を設定するようすることが必要である。

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（児童質問紙）

逗子市教育委員会

特徴的なことや課題と考えられること等

- 毎日の朝食、睡眠は 8 割から 9 割の児童がしっかりととれている。全国や県と比較しても同等以上の結果であったことから、生活習慣は概ね良いといえる。
- 多くの児童が「ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかった」経験をしていることから、そのような活動を計画的に取り入れてきたことの成果と考えられる。
- 「自分には良いところがある」という自己肯定感を持つ児童が全国や県と比べ多く見られた。
- 授業で学んだことを他の学習や普段の生活に生かしている児童が多く、また、地域や社会を良くすることを考えたり、地域の大人とのつながりのある児童が多い。
- 学校へ行くのは楽しいと感じている児童が 9 割近くいる。
- 「先生から良いところを認めてもらえていない」と感じている児童が多い。
- 「友だちの前で自分の考えや意見を発表すること」に苦手意識を持つ児童が全国や県と比べるとやや少ないものの、5 割弱いる。
- 家で学校の授業の予習復習をしている割合が 4 割程度に止まり課題である。

結果を受けて、今後の指導改善に向けて教育委員会として取り組むこと

- ・これまで同様、栄養教諭を中心とした食育の推進を図ると共に、養護教諭等による保健指導を通して、児童自らが心身の成長を大切にできるような指導を促していきます。
- ・ものごとを最後までやり遂げて嬉しいという経験を、個人レベルだけではなく、学級単位での取り組みの中でも感じられるように、活動を意図的に計画し、仲間作り、絆づくりをすすめていきます。
- ・自分には良いところがあるという自己肯定感を持つ児童が多く見られる一方で、先生から良いところを認めてもらえていないと感じている児童も多いことから、褒める指導、認める指導に力を入れ、さらに児童の自己肯定感を高めていくよう促していきます。
- ・授業の中に「他者の意見を最後まで聞く」→「他者の意見を受け止める」→「自分の考えを持つ」→「自分の考えを述べる」といった一連の流れを意図的計画的に取り入れるなど、主体的対話的で、深い学びに繋がる授業づくりを推進します。
- ・将来の夢や目標に、授業で学んだことや日々の生活が結びついていくよう、学校生活の様々な取り組みで「繋がり」を意識したキャリア教育を推進します。
- ・宿題には多くの生徒が取り組んでいることから、宿題の内容を工夫するなどしていくことを通して授業で学習したことを定着させられるよう促していきます。
- ・学校へ行くのは楽しいという児童は肯定的な評価で見ると 9 割近くいるが、「そう思う」だけを見ると 6 割弱である。友だちとの関係は 8 割程度の児童が楽しいと回答している一方で、授業の内容がよく分かれると回答した児童が 5 割程度であったことから、授業の質を高めていくように、先生方の指導力の向上を図るための研修を企画します。

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（生徒質問紙）

逗子市教育委員会

特徴的なことや課題と考えられること等

- 多くの生徒が「ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかった」経験をしていることから、そのような活動を計画的に取り入れてきたことの成果と考えられる。
- 読書をしている割合が全国や県と比較し高い。
- 学校へ行くのは楽しいと感じている児童が全国や県と比較し若干少ないものの 8 割程度いる。
- 「先生から良いところを認めてもらえていない」と感じている生徒が多い。
- 「友だちの前で自分の考えや意見を発表すること」に苦手意識を持つ生徒が 5 割以上であり、全国や県と比べても多い。
- 授業で学んだことを、他の学習や普段の生活に生かすことが全国や県に比べてできていない。
- 家で学校の授業の予習復習をしている割合が 3 割から 4 割程度に止まり課題である。

結果を受けて、今後の指導改善に向けて教育委員会として取り組むこと

- ・食事や睡眠が心身の成長に及ぼす影響について、これまで同様保健体育の授業や、養護教諭による保健指導の中で計画的に行うとともに、部活動や学校外での活動が増えることや、スマートフォンの所持率が上がることなど、小学校時代よりも生活の幅が広がっていくため、自分の生活を計画的に組み立てバランス良く生活できるような指導を学校生活の中でも行うよう促していきます。
- ・ものごとを最後までやり遂げて嬉しいという経験を、個人レベルだけではなく、学級や学年、学校単位での取り組みの中でも感じられるように、活動を意図的に計画し、仲間作り、絆づくりをすすめていきます。
- ・先生から良いところを認めてもらえていないと感じている生徒が多いことから、自分には良いところがあるという自己肯定感を持つ生徒が多くなるよう、褒める指導、認める指導を推進していきます。
- ・授業の中に「他者の意見を最後まで聞く」→「他者の意見を受け止める」→「自分の考えを持つ」→「自分の考えを述べる」といった一連の流れを意図的計画的に取り入れるなど、主体的対話的で、深い学びに繋がる授業づくりを推進します。
- ・将来の夢や目標に、授業で学んだことや日々の生活が結びついていくよう、学校生活の様々な取り組みで「繋がり」を意識したキャリア教育を推進します。
- ・宿題には多くの生徒が取り組んでいることから、宿題の内容を工夫するなどしていくことを通して授業で学習したことを定着させられるよう促していきます。
- ・学校へ行くのは楽しいという生徒は肯定的な評価で見ると 8 割近くいるが、「そう思う」だけを見ると 4 割程度である。友だちとの関係は 7 割程度の児童が楽しいと回答している一方で、授業の内容がよく分かれると回答した生徒の割合も小学校時代に比べ減っていくことから、授業の質を高めていくように、先生方の指導力の向上を図るための研修を企画します。